

東京旭川会 創立30周年

第30回東京旭川会懇親会のご報告

2006年10月18日、西新宿のセンチュリーハイアット東京にて「東京旭川会創立30周年記念講演・懇親会」が幕を開けました。今回は、第1部を旭山動物園小菅正夫園長による記念講演、第2部を懇親会として、二つの会場を用意するなど、創立30周年記念を祝うに相応しい内容となるように努めてみました。

VOL.
28



第28号：平成18（2006）年12月25日発行
発行：東京旭川会 〒104-0061
東京都中央区銀座3-9-4 文成ビル3F
竹原法律事務所内
TEL/FAX：03-3546-7339
編集：東京旭川会広報委員会

創立30周年記念総会へのご協力に
心から御礼申し上げます。



東京旭川会が結成されて三十年が経ちました。私は、初代会長平岡敏男氏、二代会長八木祐四郎氏の後を引き継ぎ、三十周年の節目に三代会長として会報「ななかまど」の誌上で、会員の皆様に御挨拶できることは、私の人生における最大の光栄と思っております。思い出しますと、昭和五十二年に旭川商業の先輩の方々が、旭川出身の方の集まりの会を作ろうということがキッカケで話がまとまり、たまたま私の叔父が先輩の方々の中にいたことから、私が叔父に呼出されて発起人会のような集まりに出席したことが、私と東京旭川会とのつながりになりました。私は、最初から東京旭川会の会員になっておりますが、東京旭川

会では、学校の先輩、後輩という縦の関係が全くなくなり、高校の同窓会では話も出来なかったような先輩の方とも気軽に話してもらえるようになりましたし、全く知らない方でも、出身小学校や旭川のどこに住んでいたかということをお話だけで、お互いに共通の話題が出来るという雰囲気があります。最近では、会員の方の高齢化もすすんでおりますが、十月十八日行われた三十周年記念の総会には、大勢の会員の方の出席をいただいたおかげで、総会は盛り上がりました。東京旭川会が、今後も旭川出身者や旭川にゆかりのある方の親睦の集まりとして、長く続いていくように、幹事の皆様とともに努力していかうという決意でおり

ます。最後になりましたが、会員の皆様のご健勝を祈念致しますとともに、今後とも東京旭川会への御協力をいたたくように、心からお願いたします。

竹原会長

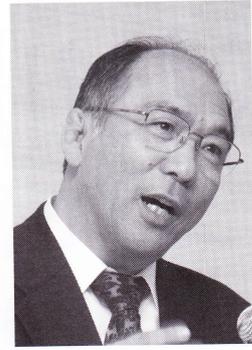
「旭川観光大使」に就任

東京旭川会会長 竹原茂雄会長が「旭川観光大使」に任命されました。写真は、創立三十周年記念懇親会の壇上で、菅原功一前旭川市長から記念品を手渡される竹原会長。



東京旭川会会長 竹原 茂雄

旭山動物園小菅正夫園長 三十周年記念講演



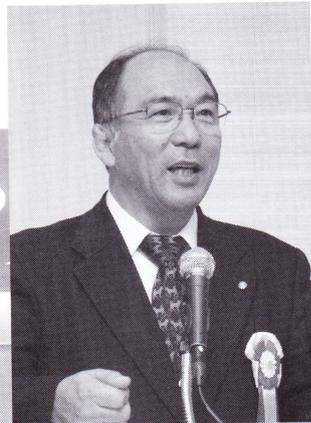
平成十八年十月十八日、待ちに待った東京旭川会第三十回懇親会開催の日を迎え、センチュリーハイアット東京地下一階クリスタルルーム前のロビーは、開場一時間前から大勢の会員で賑わい始めていました。

午後6時、講演会場「飛鳥」において、旭山動物園小菅正夫園長による記念講演がいよいよ始まりました。会場には約一五〇名の会員が席について小菅園長の登場を待っていました。郷土訪問の旅で毎年お目にかかっている方も大勢おられますが、今回のような大きな会場で講演を拝聴する機会は稀にしかありません。今回の講演タイトルは「命(いのち)の大切さ」。

「こんにちは。東京旭川会創立三十周年おめでとうございます」東京旭川会会員へ向けた祝福の第一声から始まる今回の小菅園長の講演内容は、前半と後半で二つのテーマに分けることが出来ます。前半のテーマの中で最も印象的な言葉は、「『天

の時、地の利、人の輪』この三つがあったからこそ現在の旭山動物園があるといえる。その中の『天の時』とは、まさに旭山動物園が三十周年記念の時であり、その時を節目として現在の姿へと向かっていったのです。私は、東京旭川会も三十周年記念を経てさらに広がると思います。」まさに私たちが会員を激励する言葉として受けとめられます。

後半のテーマはこの日の主題である「いのちの大切さ」について。小菅園長の言葉は「命の教育とは何か？命を説明することは誰にもできない。体験、経験の中から以外に、命とは何かを伝えることは出来ない。」「命とは命から生まれ、バトンをタッチを望んでいる。逆戻りできない命が死んだ時に初めて命の尊さが分かる。しかし、今の家庭では子供達へは伝わらない。だからこそ『命を伝える』をメッセージとし、子供達が命を感じられる動物園を創ろうと思ったのです。」そして小菅園長の言葉は「人間だけが幸せに暮らす時代は終わった。人間も動物も一緒に幸せに暮らす時代になったのです。」という内容でエンディングを迎えていきます。午後7時、司会の安井規夫幹事が会員一同を代表して御礼を述べ、満場の拍手のなかで講演は終わりました。



第三十回懇親会



■会場のクリスタルルームを埋め尽くす170名以上の参加者。



■司会者の呼びかけに笑顔で応えるご来賓の方々。

三十周年記念講演が終了したあとは、会員一同は、懇親会場となる「クリスタルルーム」へと移りました。会場は人で埋め尽くされたかのようです。ご来賓も全員揃われ、いよいよ第三十回懇親会が始まりました。

約百七十名が集まった会場は、すでにウェルカムドリンクで喉を潤しながら談笑をし始めている参加者でたいへんな熱気です。そして「みなさん、おぼんでございます」司会の松原幹事が懇親会の始まりを告げると一斉に拍手が沸き起ります。

次にご来賓の代表挨拶となり、十一月で退任される菅原市長が壇上に立たれました。その中で、旭川百十六年の歴史の中で、三期十二年間市長として市政を手掛けたことへの感謝の言葉と、元大相撲横綱北の富士さんらのご協力のもとに旭川巡業が予定されていることなどが披露されました。

乾盃の音頭は旭川市商工会議所高丸修会頭。元氣よく杯をあげました。会場テーブルには、豪華な料理が並び、その中でも旭川のかぼちゃやじゃがいもを使った郷土品コーナー、旭川ラーメン屋台、郷土物産即売会のコーナーは大人気です。元横綱の北の富士さんや寅さんタレントの原一平さんなど旭川出身の著名人の姿も見られる会場内は、あちらこちらで談笑の輪ができていきます。

恒例の大抽選会で会場内が賑やかに盛り上がり、午後八時半、原副会長の三三七拍子で三十年記念懇親会も終演。帰りには、旭山動物園の写真集や旭川のパンフレットなどの袋が手渡されました。

- (左上) 笑顔で談笑されていた元横綱北の富士さん。
- (左下) 小菅園長は各テーブルで記念撮影に応じてくださった。
- (右下) 郷土の食材で作られた料理は、今回も大人気。



■人気の旭川ラーメンには行列ができる。



■寅さんを演じる原一平さん。 ■豪華な賞品に歓声がわき起こる、大抽選会。



第十九回郷土訪問の旅

旭川会幹事 牧田 紀子



■旭山動物園にて

第十九回郷土訪問の旅参加者 (敬称略)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 小柳 武二 | 加藤 桂子 | 海老澤 美智子 | 原上 修一 | 鴻井 ヨウスケ | 土井 由江 | 土井 憲治 | 土井 磨智子 | 浅黄谷 剛寛 | 明石 尚可 | 坂東 幸子 | 坂東 勝利 | 廣野 貴之 | 牧田 紀郎 | 荻原 達郎 | 山原 奈央子 | 山原 正博 | 大野 八代子 | 大野 武夫 | 竹原 順子 | 竹原 茂雄 |
| 石川 道子 | 橋本 末子 | 小松 紉子 | 小松 平子 | 相浦 環子 | 有馬 邦郎 | 有馬 悦郎 | 伊藤 美智子 | 佐藤 直雄 | 佐藤 明彦 | 秦野 真喜子 | 前田 紀子 | 藤本 和子 | 藤本 修一 | 村上 芙美 | 松村 みさき | 伊藤 良吉 | 伊藤 賢吉 | 和田 裕子 | 和藤 美江 | 笹岡 清美 |

旅の初日は市役所の方々に旭川空港まで出迎えていただき、旭山動物園へ行きました。園内では、飼育員の方から詳しい説明を受けることができ、大変ありがたいことでした。旭山動物園の駐車場には北海道各地から来た沢山の大型バスが停まっています。旭川市内には確保できないので札幌から朝早くに出発して来ているそうです。園内に新しく出来たレストランも入っていきばいいでした。最近では台湾や韓国からの直行便もあり、九月に入っ

入場者数を越えたとです。次の日は、観光課の方のご好意で、サイバ科学館、博物館、道の駅、中富良野の後藤純美術館などを案内していただきました。それぞれに素晴らしいもので感動しました。今回は、毎年協賛いただいている旭川の企業訪問に同行しました。まず、市役所を訪ね、毎年の歓迎に

最後は(株)旭タンケさんをお訪ねしました。マンションの建築や販売のカタログを拝見しながら、山下社長さんのお話を伺っていると、時間の経つのを忘れてしまいました。中でもサンタのやまのおいしくて評判のプリンが出来た話と、旭川のゴルフ事情には涎が出そうなお話でした。それにしても今回の故郷訪問の旅で出会えた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、旭川の企業の社長さん達のお話を伺う機会を得て、東京旭川会が多くの人達に支えられてきたことが分かりました。皆様今後もどうか、お元気で。

お礼の気持ちを伝えました。次に商工会議所の高丸会頭をお尋ねし、企業からの協力を感謝の気持ちを伝えました。その後、佐藤事務局長のご紹介で、いくつかの企業をお伺いするこ

東京旭川会 ゴルフ親睦会のご案内

コース内の枝垂れ桜が眺められる春と、秋シーズンたけなわの10月頃に催される東京旭川会のゴルフコンペには、腕に自慢のベテランから、年2回このコンペ限定ゴルフアーマーまで、和気あいあいと楽しんでプレーしています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



■第31回ゴルフコンペの参加者

- [第30回ゴルフコンペ]**
 - 開催日：平成18年4月6日 (水)
 - 場所：武蔵富士カントリー倶楽部 参加者11名
 - 優勝：湯浅 周 ゴロス87 HDCP13.20 ネット73.80
 - 準優勝：横田 茂 ゴロス93 HDCP31.20 ネット75.00
 - 3位：得能 英成 ゴロス91 HDCP76.20 ネット75.40
 - ベスト：湯浅 周 ゴロス87
- [第31回ゴルフコンペ]**
 - 開催日：平成18年10月12日 (木)
 - 場所：武蔵富士カントリー倶楽部 参加者12名
 - 優勝：吉田 義勝 ゴロス84 HDCP12 ネット72.00
 - 準優勝：河原 惟臣 ゴロス100 HDCP26.40 ネット73.60
 - 3位：澤田 宏勝 ゴロス96 HDCP24.00 ネット75.00
 - ベスト：吉田 義勝 ゴロス84
- [第32回ゴルフコンペ案内]**
 - 開催日：平成19年4月5日 (木)
 - 場所：武蔵富士カントリー倶楽部
 - 6組を予定しており、振るっての参加お待ちしております。
 - 世話人幹事：小柳 武二 (東京旭川会事務局長)
 - TEL：048-251-8605

我が故郷の思い出 坂東 幸子

毎年、郷土訪問の旅から帰ると、心よい疲れと共にもう来年の旅が待ちどおしい気持ちでいっぱいです。私は旭川生まれの旭川育ちで生粋の道産子です。

朝な夕な雄大な大雪の山々を見て大きくなりました。そのせいか少しのんびりした所があるようです。両親が旭川に来た時は、家が一軒あっただけで狐や狸、猪(ムジナ)等が沢山いて、狸にだまされたことがよくあると話を聞かされました。近文にいたアイヌの酋長さんも時々遊びに来て話してこんでいったそうです。1人兄弟の末子である私が小学校に入った時は、旭川もすっかり町らしくなっていて昔話など嘘のように思われました。でも今にして思えばもっと、くわしくいろいろと書いておけばよかったと悔やまれます。

小学校では、朝水点下25度になれば花火が上がり学校は休みになります。「うー、休みだ」と嬉しかったことが思い出されます。何しろ現在のように暖房設備の充実していない時代なので湯たんぽを入れて寝ても、朝、目を覚ますと吐く息で掛けぶとんの衾がパカパカに凍っている始末で、相当冷えこんだんだと思います。

登校時に長靴をはいて雪道を歩いてみると、リンリンと鈴を鳴らしながら馬車がやってきます。手綱を持たおじさんが立っていて「学校の前まで乗って行きな」というので、我れ先にと友だちと飛び乗ったことが思い出されます。

20才過ぎに東京に出て、暫くぶりで故郷に帰った時は、本当に懐かしく学校時代の友だちとクラス会を開いて昔話を花を咲かせました。

私は、毎年、故郷に帰る度に大きく発展していく旭川の町を見るのが大好きです。その上最近旭山動物園が全国的に知られるようになり、今年はぎっしり並んだ観光バスを見て、只々驚きばかりでした。

先日、某新聞の市の魅力度ランキング(779市対象)で50位まで出ていたところが、何とそのうち北海道から6市も入っていました。そしてその中に旭川市も入っているのを見て本当に嬉しく感激しました。これからも我が故郷、旭川市の益々の躍進を心から願っております。



■平成18年、第19回故郷訪問にて

将来に託する夢

東京旭川会副会長 原 公朗

昨年五月、旭商同窓会の懇親会に招待されました。さすがは伝統のある高校の雰囲気を感じさせる素晴らしい会に感動しました。

懇談しながら、ふと見ると弟が居り、近所の幼馴染、見覚えのある顔、自然に打ち解けて会話も弾み、初めての参加にもかかわらず親睦の輪が広がり豊かなひと時を過ごしました。

和氣藹々の皆さんを拜見しながら在京全校の方々が合同で懇親会を開くことが出来たらどんなに楽しいことだろうと思いました。

幼い頃は小学校や中学校が一緒でも進学は別で、兄弟姉妹でも別々の学校へ通学するのでもごく普通のことでした。全校一同に会することに比べて日ごとの疎遠になりがちな間柄を温める良い機会となり、また、他校との情報交換、友人を相互に紹介しあう新しい交流の場、更にスケールメリットも効果的に広がるのが期待できます。

現在、各校それぞれに特色のある同窓会を運営していますから、すぐには難しいと思いますが、相互の交流を盛んにし全校合同懇親会の開催をいつの日か実現出来ればどんなに素晴らしいことかと夢見しています。

東京旭川会の歩み

昭和五十年頃、「旭川出身者の集まりを」との声が徐々に高まりつつありました。

そこで旭川会設立発起人数名のご尽力により昭和五十二年十月、『東京旭川会』として発足致しました。

東京旭川会初代会長には、故平岡敏男氏(元毎日新聞社会長)が就任し、赤坂ホテルニュージャパンに於いて、159名の出席者により創立総会が催されました。

以来、旭川市出身者の方及び旭川市に縁のある方々等の友好親睦の集いとして、第2代会長、故八木祐四郎氏に引き継がれ、東京旭川会の発展はもとより、郷土旭川市に対しても多大な功勞、功績を残されました。平成十三年故八木氏の急逝により、後継として第3代会長、竹原茂雄氏が就任し今日に

至っております。

平成十八年度、創立三十周年記念講演/懇親会の開催を経るにあたり、これからもより一層、同じ郷土出身者として世代を越えた親交・親睦を深め、楽しい懇談の場として未永く歩み続けたいと考えます。

今後東京旭川会の継続、発展について皆様のご意見、協力をお願い申し上げます。

【歴代会長】

昭和五十二年 初代会長 平岡 敏男

【株毎日新聞社会長】

昭和六十一年

第2代会長 八木 祐四郎

【東京美装興業(株)会長】

平成十三年

第3代会長 竹原 茂雄

【竹原法律事務所】

祝東京旭川会創立30周年

旭川空港ビル株式会社

代表取締役社長 菅原 功一

社団法人 旭川観光協会

会長 稲村 健藏

旭川商工会議所

会頭 高丸 修

関西旭川会

会長 豊澤 敬一郎

会員の皆様へ



旭川市長 西川 将人

「前のこととして享受していた旭川の美しさ、温かさ、素晴らしいが、故郷を離れたことにより一層強く感じられるようになり、この街のよさを再認識し、更に大好きな街となりました。」

旭川は、旭山動物園や旭川ラーメン、家具、クラフトなど、地方都市でありながら全国の知名度を誇る数多くの素材を持っておりその潜在能力は非常に高いものがあります。

私は、市長としてこの地域の特長や、得意な分野を伸ばし、更にそれらを全国へ、そして世界へとアピールし、郷土・旭川づくりを進めていく決意でございますので、皆様の変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

年の瀬も押し詰まってまいりました。皆様におかれましては良いお年を迎えられますようお願い申し上げますとともに、東京旭川会の限りの御発展を心から祈念し、御挨拶いたします。

プロフィール

- 昭和43年11月7日/旭川市に生まれる
 - 昭和59年/旭川市永山中学校卒業、スキー部で活躍する
 - 昭和62年/道立旭川東高校卒業、レスリング部に所属。全道ベスト8入り
 - 平成5年/北海道大学工学部卒業、ヨット部主将。日本航空(株)に入社、その後、ジャンボジェット機のパイロットとしてヨーロッパ路線に乗務
 - 平成11年/日本航空(株)退社。故郷の旭川市に戻り、政治の道を志す
 - 平成12年/北海道6区より衆議院総選挙に出馬
 - 平成13年/北海道選挙区より参議院選挙出馬
 - 平成15年/北海道6区より衆議院総選挙出馬
 - 平成16年2月/民主党入党
 - 平成16年/北海道選挙区より参議院選挙出馬
 - 平成17年7月/民主党北海道常任幹事に就任
民主党北海道交通政策委員長
 - 平成18年1月/民主党北海道道民運動委員長
 - 平成18年2月/民主党北海道第6区総支部 副代表
 - 平成18年10月/旭川市長選に当選
- ※プロフィールはMASAHITO NISHIKAWA WEB SITEより抜粋しました。

東京旭川会の会員の皆様、先の旭川市長選挙において、市民の皆様の厳粛な附託を受け、十一月十七日から第24次旭川市長に就任いたしました西川将人でございます。

地方行政を取り巻く環境は、未だ大変厳しい状況にあります。元氣な、そして安心して暮らすことの出来る旭川の表現のため、市民や旭川をこよなく愛する皆様とともに一緒に、まじめに、真剣に、まっすぐな歩を進めていきたいと考えております。

旭川で生活していたときには、当

旭川東高等学校音楽部が
第74回NHK全国学校音楽コンクール
全国コンクールに出場

旭川東高等学校音楽部OB 山川 智

合唱コンクールとして昭和七年以来74回開催の歴史を持つNHK全国学校音楽コンクールに旭川東高等学校音楽部が高等学校の部北海道代表として全国コンクールに初出場を果たしました。

旭川東高等学校音楽部は大正十四年創部で八一年の歴史を持ちますが、NHKコンクールは私が現役生の頃は旭川地区コンクールを突破するの

が目標であり、全国コンクール出場などまさに夢でありました。最近の東高音楽部、部員約50名、平成十八年三月には旭川ななかもと文化賞を受賞するなど、私が現役のごころとは比べ物にならないほどの活動は盛んですが、私のこころは今回の全国コンクール出場は自分の夢がかなったような気分であり、当日NHKホールに馳せ参じました。また、当日ホールには東京近辺にいる音楽部OBの他、現役生の父母の皆様も多数生徒に同行してこれら当日の音楽部の勇姿を見守りました。

全国コンクールには各地区から十一校が出場し、東高の演奏順は4番目でありました。さすがに全国コンクールとなると参加校のレベルは非常に高く、各校が見事な演奏を披露する中、我が東高音楽部は初出場の

緊張を感じさせることなく美に伸び伸びとした素晴らしい演奏を聞かせてくれました。特に自由曲「鯨曳き唄」にあってはNHKホールの観客を引き付け、その力を余すことなく発揮してくれたと感じた次第です。入賞こそ果たせませんでした。その演奏は入賞してもおかしくないレベルであると当日ホールで応援したメンバー一同確信した次第です。

コンクール終了後、宿泊先のホテルで開かれたお疲れ様会に私も出席させてもらいましたが、現役生皆晴れ晴れとした表情で、満足感に満ち溢れていました。生徒それぞれにとっても、すばらしい思い出となったことは間違いないと思います。

全国大会出場というのは決して簡単なことではありませんが、またあのNHKホールで母校の勇姿を見た、いや、また見せてくれるのではないかと期待する一日でありました。

最後に全国大会出場まで指導していただいた水野先生はじめ応援していただいた父母、OBの皆様にご挨拶申し上げます。東京旭川会の皆様にも今後とも東高音楽部を応援していただきますようお願い申し上げます。

旭川だより

01

北海道日本ハム
ファイターズが
旭川で公式戦開催

今年の北海道は、野球で大いに盛り上がり、なかでも日本一となった北海道日本ハムファイターズは、今や道民球団としてすっかり定着しています。

五月二十八日に、旭川スタルヒン球場で2年振りに開催された公式戦には、満員の観客が熱い声援を送りました。十一月二十三日には、武田久、鶴岡剛選手が市役所を訪問し、日本一の報告と来季への抱負を語りました。来年九月一日の旭川での公式戦開催も決定し、市民の多くが楽しみにしています。



■あさひかわ新聞提供

02

旭川空港に
国際定期便が就航

六月八日、待望の国際定期便「アジア航空旭川〜仁川（ソウル）」線が就航いたしました。

定期便の就航により、相互を訪問する観光客の増加が見込まれるとともに、ゆくゆくは物産の輸出入など人やモノの交流が一層活発となり、市民にとって海外が身近な存在となることが期待されています。

就航初日の第一便は、旭川市の関係者や市民で満席となり、旭川空港にて開催された歓迎セレモニーでは多くの市民が、就航を祝いました。

03

日中韓文化・
民間交流事業を開催

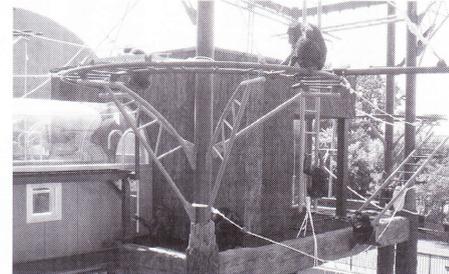
七月一日から釧路市、旭川市、札幌市を会場として、日中韓観光大臣会合が開催され、「北海道宣言」が採択されました。

この一環として、旭川市では文化・民間交流事業が行われ、シンポジウムや会合が行われたほか、三国の青少年による交流や、買物公園での演奏、レセプションが開催されました。

市民と中国・韓国の訪問団との交流が、市内各所で行われ、交流と友情の輪が大いに拡がり、市民が両国を身近に感じる良い機会となりました。



04

旭山動物園に
新施設がオープン

■旭山動物園提供

旭山動物園は、今や全国的なブームとなり来園者も毎年増加し、既に昨年を上回る240万人を突破しています。動物の生態をありのままに伝える「行動展示」の施設として、八月五日に「ちんぼんじーの森」がオープンしました。

この施設には、「スカイブリッジ」が設置され、目の前で空中を自由に動きまわるチンパンジーの姿が観察できます。

また、東門も改修され、レストランや物産を販売するコーナーも設置され、人気を集めています。

05

菅原前市長退任と
西川新市長就任

これまで、三期二年にわたる旭川市政を担われ、東京旭川会にも毎回のように出席されていた菅原功一旭川市長が十一月十六日に任期満了で退任されました。

翌十一月十七日には、西川将人市長の就任式と菅原前市長との事務引継ぎが行われました。

西川市長は、就任の挨拶で「対話から市政を動かすとの信念を持って行動し、素晴らしい旭川のまちづくりに、まじめに真剣に取り組んでいく」と、市政に取り組み決意を述べ西川市政がスタートしました。



編集後記

■東京旭川会創立三十周年記念講演／懇親会は想像以上に盛り上がった、という印象があります。参加された方々は、きつと楽しいひとときを過ごしていただけたのではないかと思います。

■特に皆さんが楽しみにされていたのが小菅園長の記念講演でしたが、その内容については、ななかまどの編集ワーク中に、今度振り返る作業をしました。

■小菅園長の講演内容のキーワードは、本文中でも紹介したように、「天の時・地の利・人の輪」と「命の大切さ」です。その中で、気付いたことですが、「命の大切さ」と「命」とは、東京旭川会のような親睦の会や「ミニメディア」な育てられる「輪」と「縁」などの言葉に置き換えても相通じるところがありません。

■旭山動物園三十周年と同様、東京旭川会創立三十周年が「天の時」となるよう願う。そのためにも東京旭川会は「人の輪の大切さ」を伝えられる会であり続けてほしい。小菅園長ご自身から感じられる情熱ある志が寄せられたメッセージが旭山動物園と同じように、東京旭川会に「命の命を吹き込んでくれた」として、私たちは受けとめたいと思います。